

# Chiba Weekly Report

2022

— 第 15 週 —

2022/4/11～2022/4/17

## 千葉県結核・感染症週報

千葉県感染症天気図 . . . . . 2

今週の注目疾患 . . . . . 3-4

アメーバ赤痢

全数報告疾患集計表 . . . . . 5

定点報告（五類感染症）

疾病別グラフ . . . . . 6-10

〈男女合計〉

RS ウイルス感染症・咽頭結膜熱・A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・  
水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・ヘルパンギーナ・  
流行性耳下腺炎・インフルエンザ・急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎・  
クラミジア肺炎・細菌性髄膜炎・マイコプラズマ肺炎・無菌性髄膜炎・  
感染性胃腸炎（ロタウイルス）

疾患別・保健所別・年齢階級別集計表 . . . . . 11-14

〈男女合計〉

RS ウイルス感染症・咽頭結膜熱・A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・  
水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・ヘルパンギーナ・  
流行性耳下腺炎・インフルエンザ・急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

千葉県健康福祉部 千葉県衛生研究所 千葉県医師会

（千葉県感染症情報センター）

## 定点把握対象の五類感染症

千葉県感染症天気図 2022年 第15週

上段は定点当たり報告数

定点当たり報告数＝報告数/定点医療機関数

下段は報告数

定点	疾 病 名	流行状況	コ メ ント	15週	14週	13週	12週	11週
小児科	小児科定点医療機関数			128	126	129	130	130
	RSウイルス感染症			0.00 0	0.01 1	0.00 0	0.00 0	0.01 1
	咽頭結膜熱			0.05 6	0.02 3	0.00 0	0.01 1	0.04 5
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.13 16	0.10 13	0.22 28	0.13 17	0.19 25
	感染性胃腸炎		印旛(8.3)、市原(6.7)、 千葉市(6.3)	4.21 539	3.53 445	3.08 397	2.72 354	3.62 471
	水痘			0.05 7	0.05 6	0.04 5	0.02 3	0.05 6
	手足口病			0.08 10	0.02 3	0.02 2	0.04 5	0.03 4
	伝染性紅斑			0.02 2	0.01 1	0.02 2	0.01 1	0.03 4
	突発性発しん		海匝(1.0)	0.34 43	0.21 27	0.26 33	0.22 29	0.24 31
	ヘルパンギーナ			0.02 2	0.00 0	0.01 1	0.01 1	0.00 0
	流行性耳下腺炎			0.03 4	0.01 1	0.03 4	0.00 0	0.03 4
インフルエンザ	インフルエンザ定点医療機関数			206	205	208	209	207
	インフルエンザ			0.00 1	0.00 1	0.00 0	0.00 0	0.00 0
眼科	眼科定点医療機関数			33	33	32	33	33
	急性出血性結膜炎			0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0
	流行性角結膜炎		野田(1.0)	0.12 4	0.09 3	0.13 4	0.03 1	0.09 3
基幹病院	基幹定点医療機関数			9	9	9	9	9
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)			0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0
	細菌性髄膜炎			0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0
	マイコプラズマ肺炎			0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.11 1
	無菌性髄膜炎			0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.11 1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)			0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0	0.00 0
	風しん			0	0	0	0	0
全数	麻しん			0	0	0	0	0

備考



増加



やや増加



変化なし



やや減少



減少

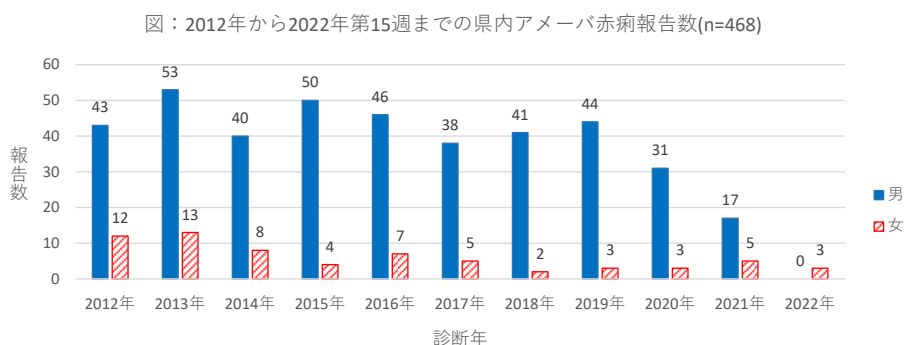
※診断日を基準とします。報告の追加、取り下げ等により、数値は今後変動することがあります。

## 【今週の注目疾患】

## 《アメーバ赤痢》

2022年第15週に県内医療機関より1例のアメーバ赤痢の報告があり、2022年の累計は3例となった。3例ともに女性であり、40代が2例と30代が1例であった。病型は全て腸管アメーバ症であった。

県内のアメーバ赤痢は、2012年から2022年第15週までに468例の報告があった。2013年に過去10年間で最多の66例となり、その後は年間40～50例程度で推移し、2020年以降は減少傾向となっている（図）。



468例のうち、男性は403例（86%）、女性は65例（14%）で8割以上を男性が占めていた。年代別では、男性は40代が107例（27%）と最も多く、次いで50代が98例（24%）、60代が92例（23%）であった。女性も最も多いのは40代23例（35%）であり、次いで30代が10例（15%）であった。

病型別では腸管アメーバ症が422例（90%）、腸管外アメーバ症が37例（8%）、腸管および腸管外アメーバ症が9例（2%）であった。

推定される感染地域は、国内が362例（77%）と最も多く、国外は60例（13%）、国内または国外が8例（2%）、不明は38例（8%）であった。

推定される感染経路は、男女ともにその他・不明が最も多く、男性206例（51%）、女性37例（57%）であった。次いで経口感染であり、男性110例（27%）、女性18例（28%）であった。経口感染の推定感染源として、水、野菜や魚介類の生食のほか、介護等における便処理等の記載があった。性的接触は男性87例（22%）、女性10例（15%）であった。男性は異性間性的接触が51例と同性間性的接触17例より多く見られた。女性では10例全て異性間性的接触であった（表）。

表：2012年から2022年第15週までに報告のあった県内アメーバ赤痢の推定感染経路（n=468）

	男		女	
	件数	割合	件数	割合
経口感染	110	27%	18	28%
性的接触	87	22%	10	15%
異性間	51		10	
同性間	17		0	
異性・同性	1		0	
不明	18		0	
その他・不明	206	51%	37	57%
合計	403	100%	65	100%

アメーバ赤痢は寄生性の原虫である赤痢アメーバ（*Entamoeba histolytica*）による消化管感染症である。赤痢アメーバは、嚢子（シスト）として感染者の糞便に排泄され、感染を起こす。シストは小腸で脱嚢して栄養型となり、大腸粘膜面に潰瘍等の病変を起こす。感染者のうち 5~10% が発症する。粘血便、下痢、テネスマス（便意があるが排便はない）、腹痛などの赤痢様症状を起こす（腸管アメーバ症）。栄養型が血行性に肝臓、肺、脳、皮膚などに転移すると、膿瘍を形成し、重篤な症状を呈する（腸管外アメーバ症）<sup>1)</sup>。

潜伏期は 2~3 週間とされるが、数ヶ月~数年に及ぶこともある。肝膿瘍などの合併症を伴わない限り、発熱はまれである。下痢による発症は一般に緩徐であり、程度も粘血が混ざる 1 日 2~3 回程度のものから、テネスマスを伴い 1 日に 20 回以上の粘血便を示すものまで多彩である。肝膿瘍の場合、主な臨床症状は発熱、上部腹痛、肝腫大などであり、最も多く見られるのは発熱である。アメーバ性肝膿瘍の 50% は下痢や粘血便などの腸管症状を伴わない<sup>2)</sup>。

感染経路は、シストに汚染された食品や水を摂取することにより感染する経路と性的接触により感染する経路がある<sup>3)</sup>。

食品や水の摂取による感染対策については、特に上下水道のインフラが整っていない地域に渡航する際には、清潔な食品や水の確保、手指衛生に留意することが重要である。

国立感染症研究所によると、我が国の国内感染例の多くは性的接触による感染である。従来、男性同性間性的接触による感染が注目されてきたが、近年では異性間性的接触を原因とする症例の報告が増加してきた。性的接触（経口・肛門性交渉等）によるシストの経口摂取など性行為の多様化により生ずる感染リスクに注意する必要がある。また、無症状病原体保有者（無症状シストキャリア）の報告も増加している。無症状シストキャリアは届出対象ではないが、潜在的な感染源として、またアメーバ赤痢への劇症化リスクを減らすためにも、治療することが重要である<sup>1)</sup>。

#### ■参考

1) 国立感染症研究所：アメーバ赤痢 2007 年第 1 週~2016 年第 43 週

IASR Vol.37 2016 年 12 月号

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/entamoeba-histolytica-m/entamoeba-histolytica-iasrtpc/6941-442t.html>

2) 国立感染症研究所：アメーバ赤痢とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/315-amoeba-intro.html>

3) 国立感染症研究所：性感染症としてのアメーバ赤痢の国内疫学，2000~2013 年

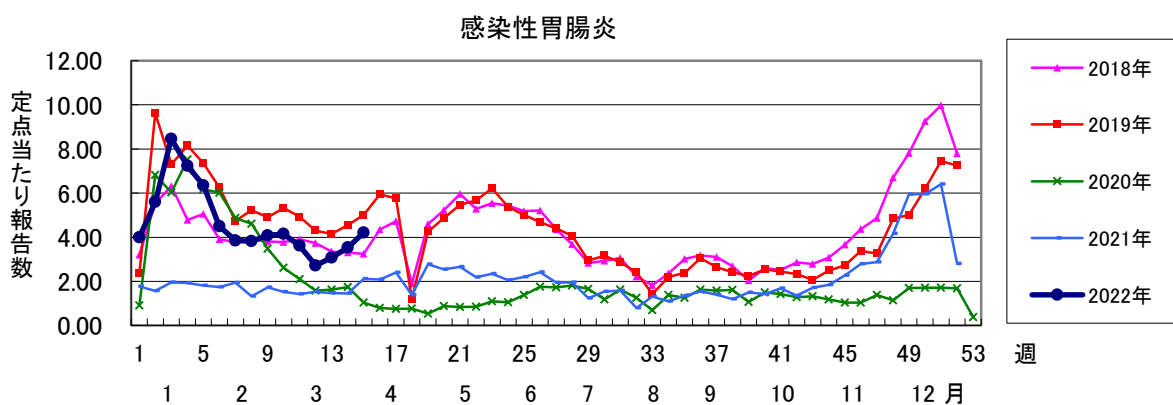
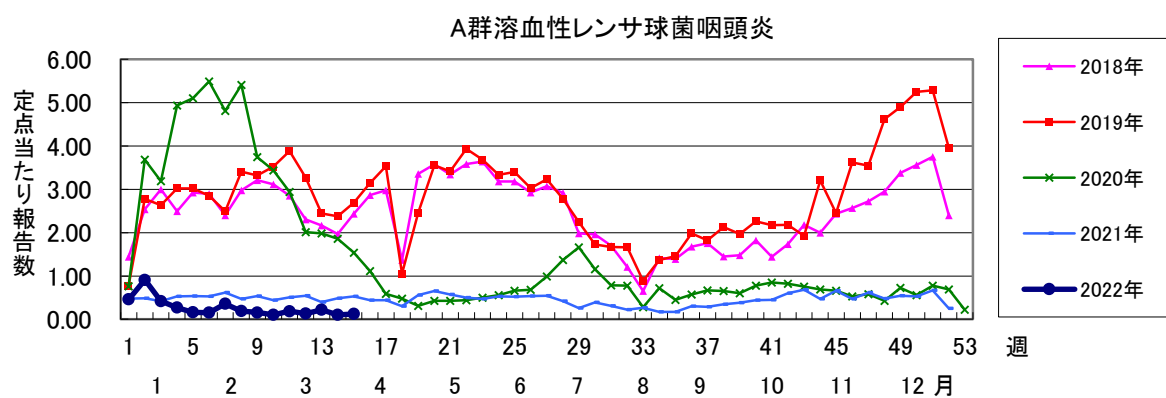
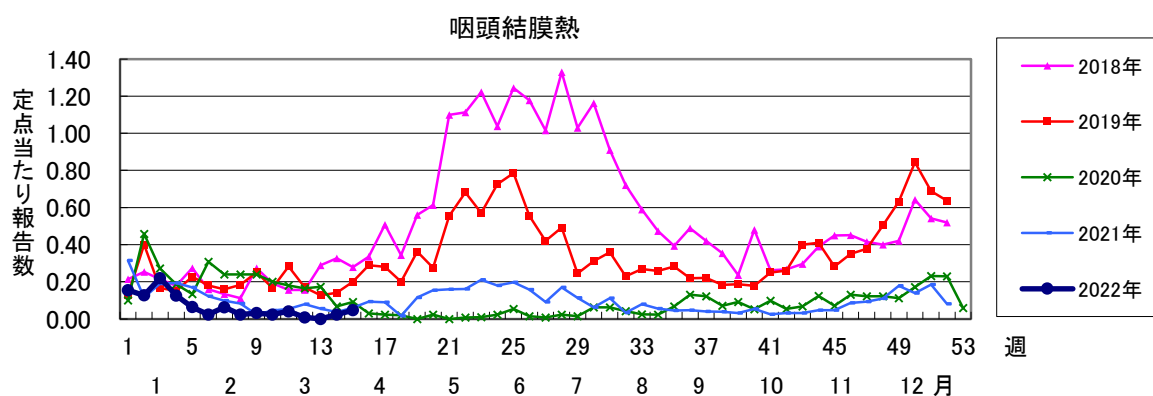
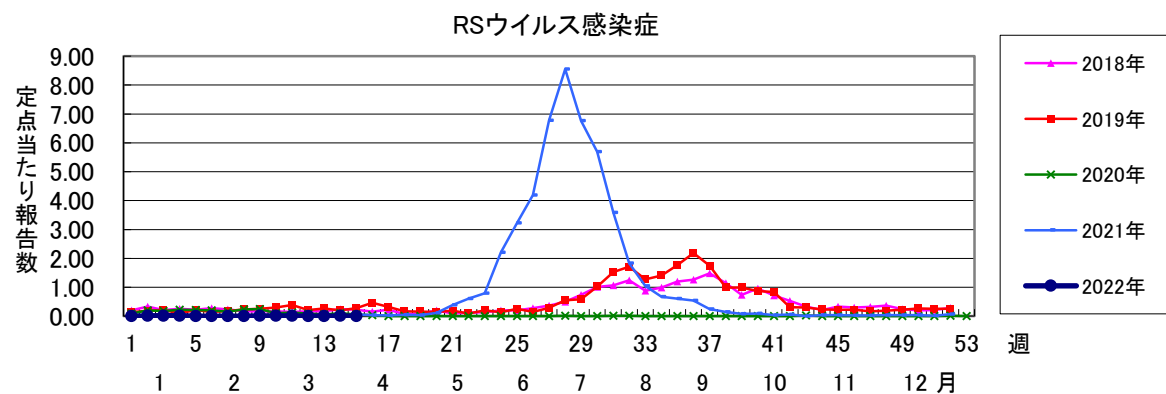
IASR Vol. 37 2016 年 12 月号

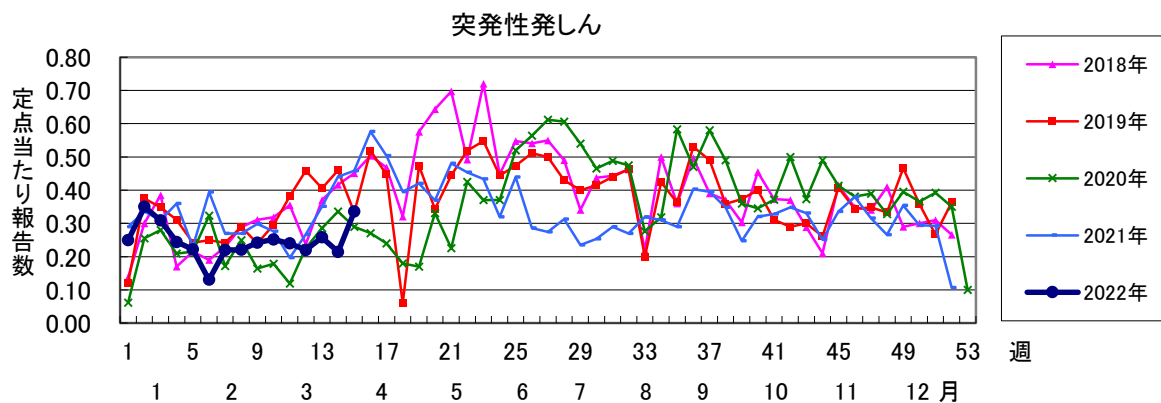
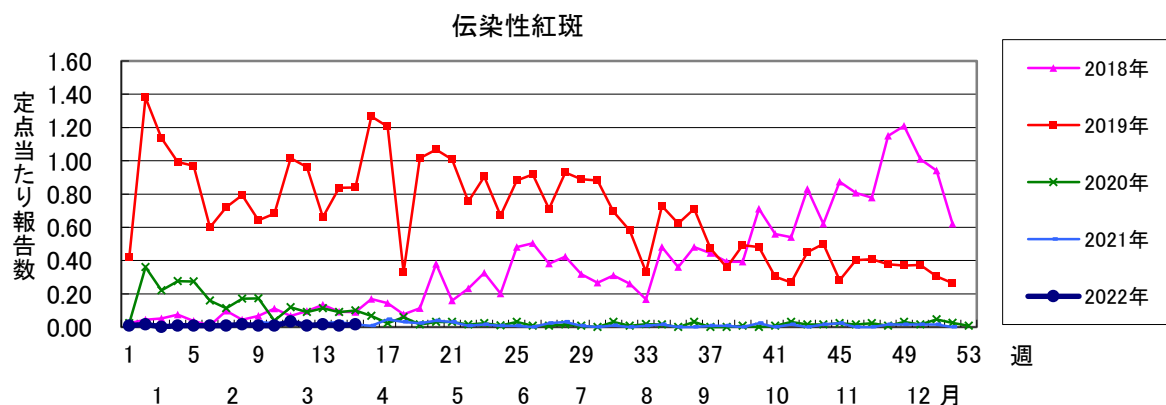
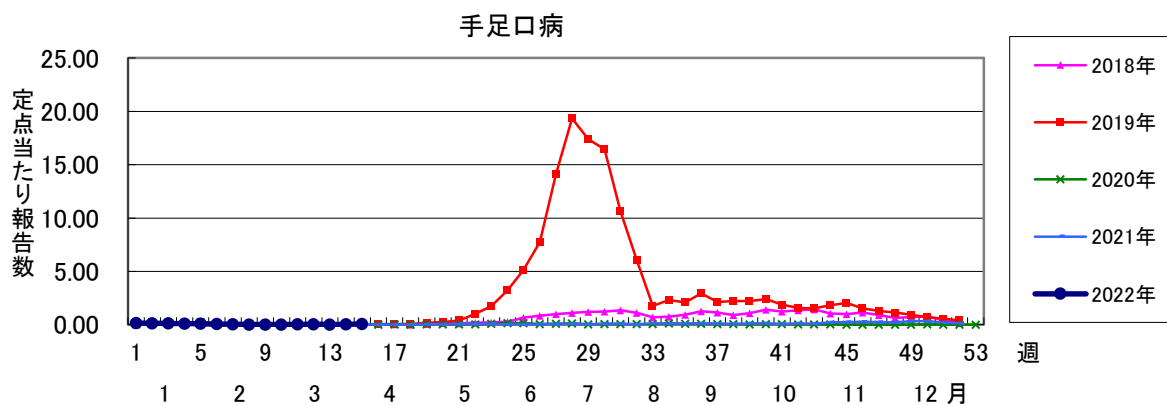
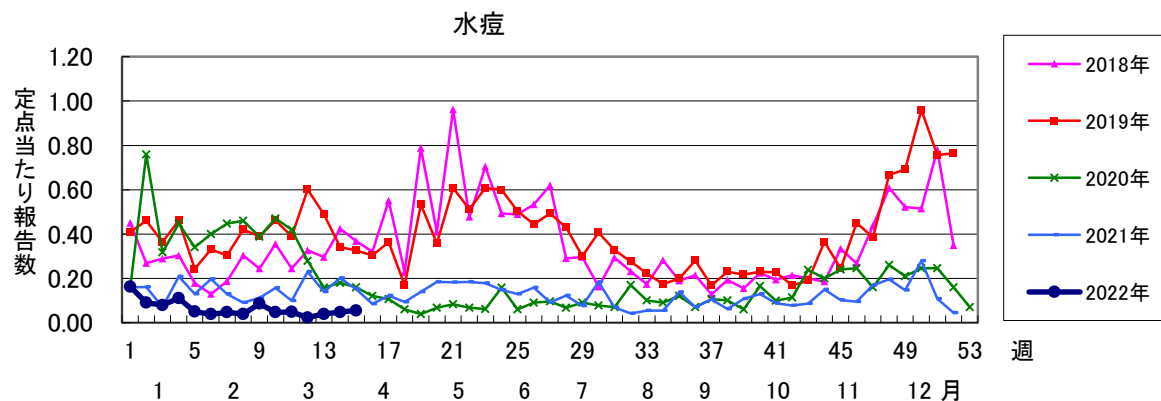
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2351-related-articles/related-articles-442/6942-442r01.html>

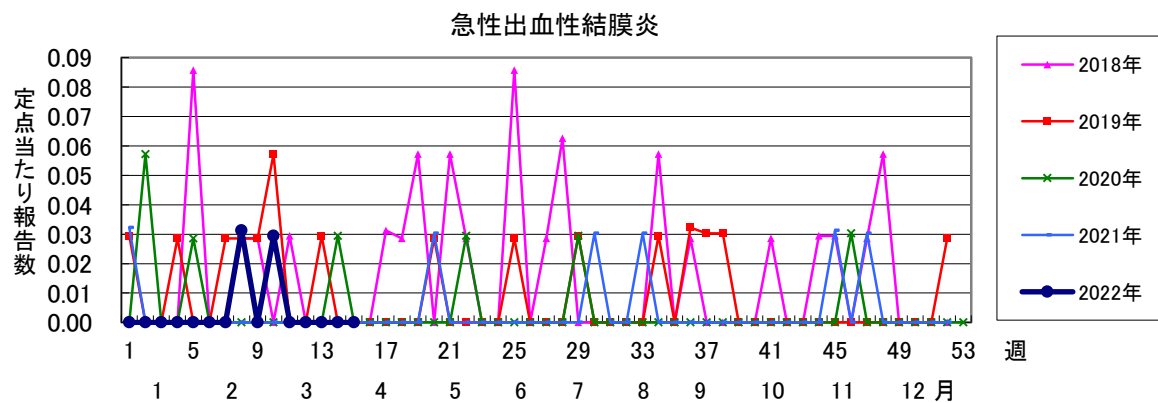
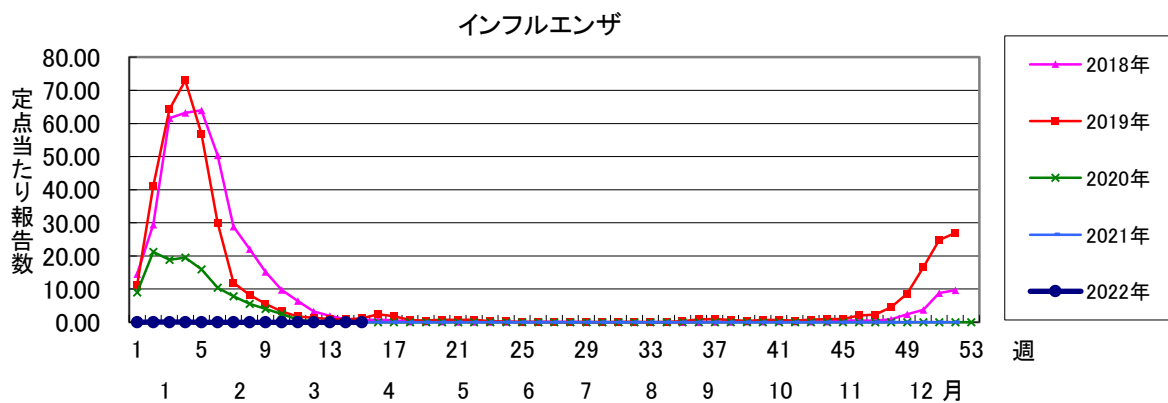
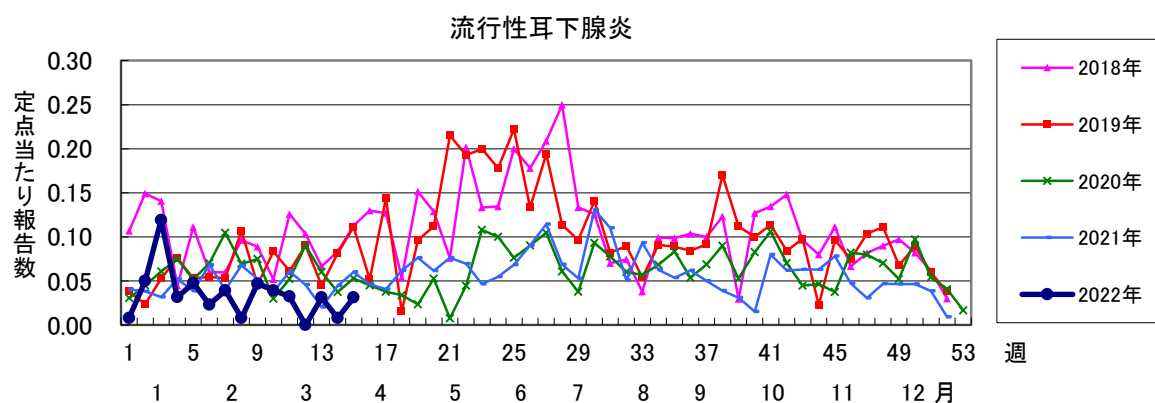
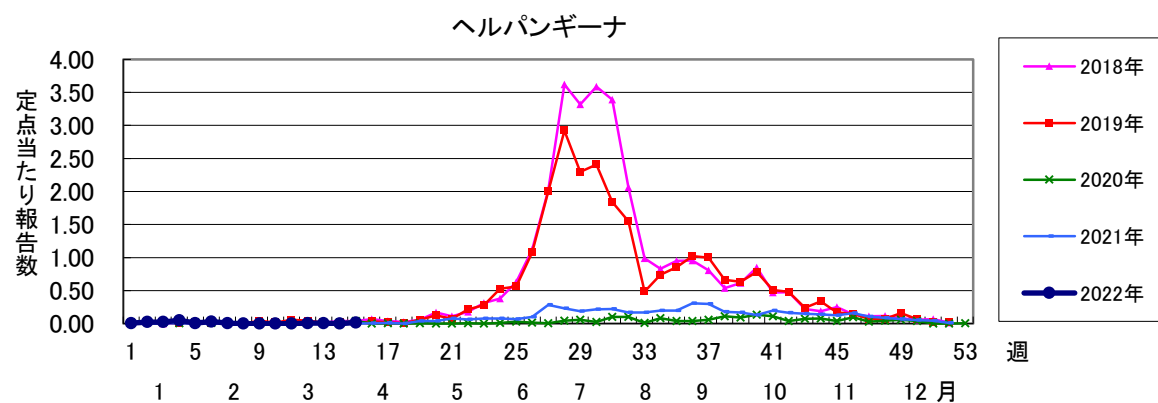
## 第15週全数報告疾患集計表

一類感染症	今週	累計(年)	四類感染症(その2)	今週	累計(年)
エボラ出血熱	0	0	日本紅斑熱	0	0
クリミア・コンゴ出血熱	0	0	日本脳炎	0	0
痘そう	0	0	ハンタウイルス肺症候群	0	0
南米出血熱	0	0	Bウイルス病	0	0
ベスト	0	0	鼻疽	0	0
マールブルグ病	0	0	ブルセラ症	0	0
ラッサ熱	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0
			ヘンドラウイルス感染症	0	0
			発しんチフス	0	0
			ボツリヌス症	0	0
			マラリア	0	1
			野兔病	0	0
			ライム病	0	0
			リッサウイルス感染症	0	0
			リフトバレー熱	0	0
			類鼻疽	0	0
			レジオネラ症	1	13
			レプトスピラ症	0	0
			ロッキー山紅斑熱	0	0
二類感染症	今週	累計(年)	五類感染症(全数)	今週	累計(年)
急性灰白髄炎	0	0	アメーバ赤痢	1	3
結核	16	211	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	0	3
ジフテリア	0	0	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	10
重症急性呼吸器症候群(SARS)	0	0	急性弛緩性麻痺	0	0
中東呼吸器症候群(MERS)	0	0	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)	1	5
鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	クリプトスポリジウム症	0	0
鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2
			劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	4
			後天性免疫不全症候群	0	7
			ジアルジア症	0	0
			侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0
			侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0
			侵襲性肺炎球菌感染症	0	8
			水痘(入院例)	0	1
			先天性風しん症候群	0	0
			梅毒	2	74
			播種性クリプトコックス症	0	3
			破傷風	0	1
			バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0
			バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	5
			百日咳	0	4
			風しん	0	0
			麻しん	0	0
			薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0
三類感染症	今週	累計(年)	新型インフルエンザ等感染症(その2)	今週	累計(年)
コレラ	0	0	新型インフルエンザ	0	0
細菌性赤痢	0	0	再興型インフルエンザ	0	0
腸管出血性大腸菌感染症	0	7			
腸チフス	0	0			
パラチフス	0	0			
四類感染症(その1)	今週	累計(年)			
E型肝炎	1	19			
ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	0	0			
A型肝炎	0	1			
エキノкокクス症	0	0			
黄熱	0	0			
オウム病	0	0			
オムスク出血熱	0	0			
回帰熱	0	0			
キャサヌル森林病	0	0			
Q熱	0	0			
狂犬病	0	0			
コクシジオイデス症	0	0			
サル痘	0	0			
ジカウイルス感染症	0	0			
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	0	0			
腎症候性出血熱	0	0			
西部ウマ脳炎	0	0			
ダニ媒介脳炎	0	0			
炭疽	0	0			
チクングニア熱	0	0			
つつが虫病	0	3			
デング熱	0	0			
東部ウマ脳炎	0	0			
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0			
ニパウイルス感染症	0	0			
新型インフルエンザ等感染症(その1)	累計				
新型コロナウイルス感染症*	402,859				

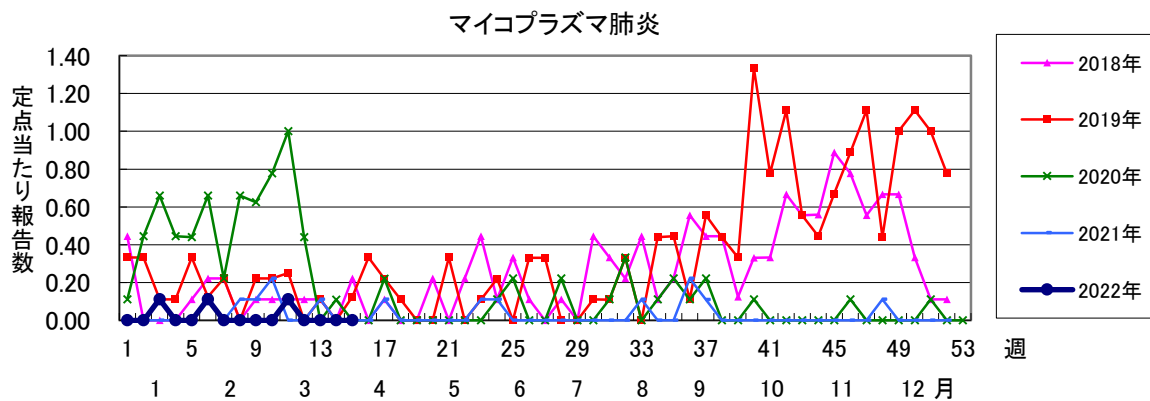
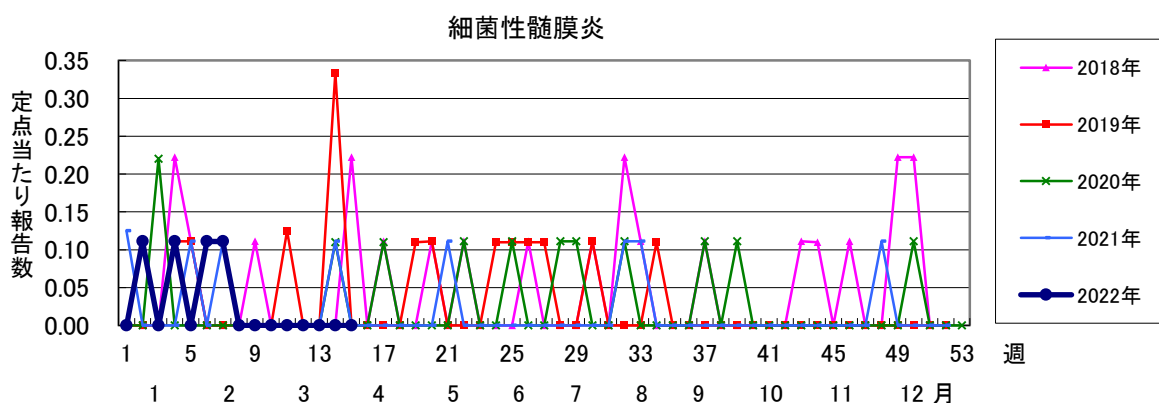
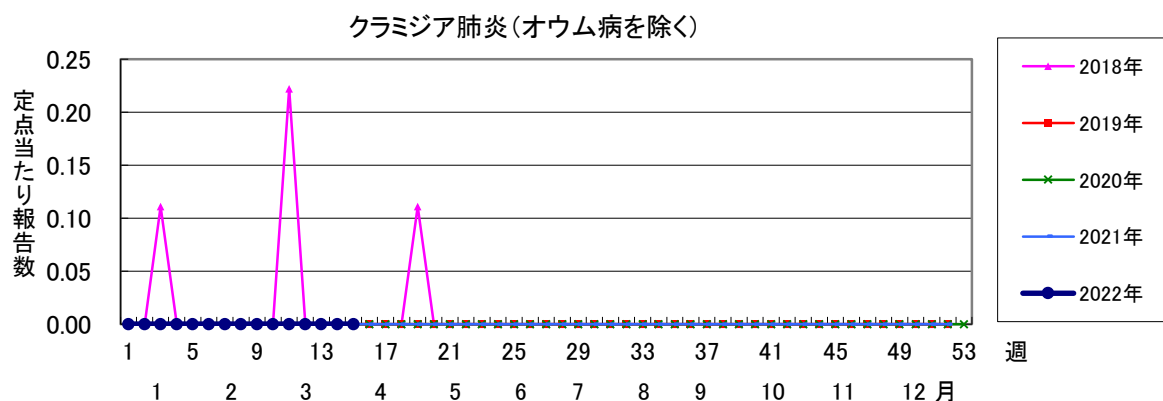
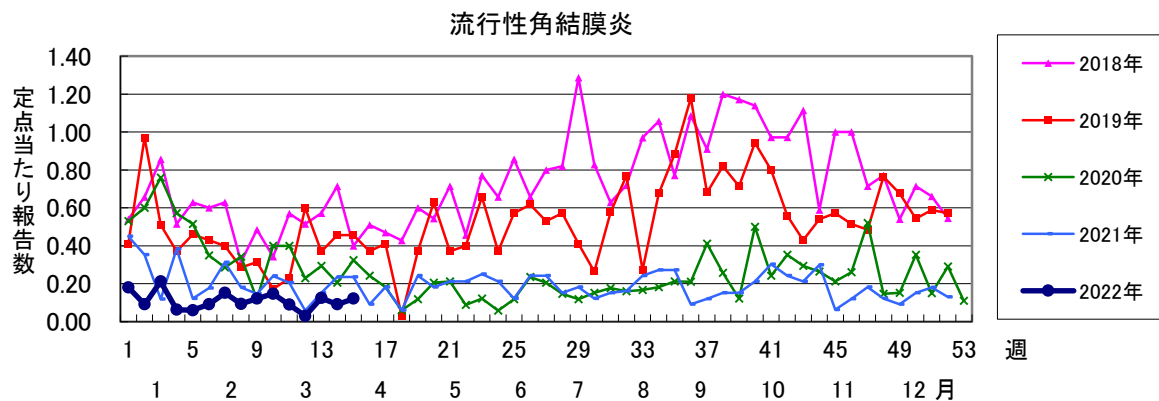
\* 千葉県報道発表による(4月19日13時現在)

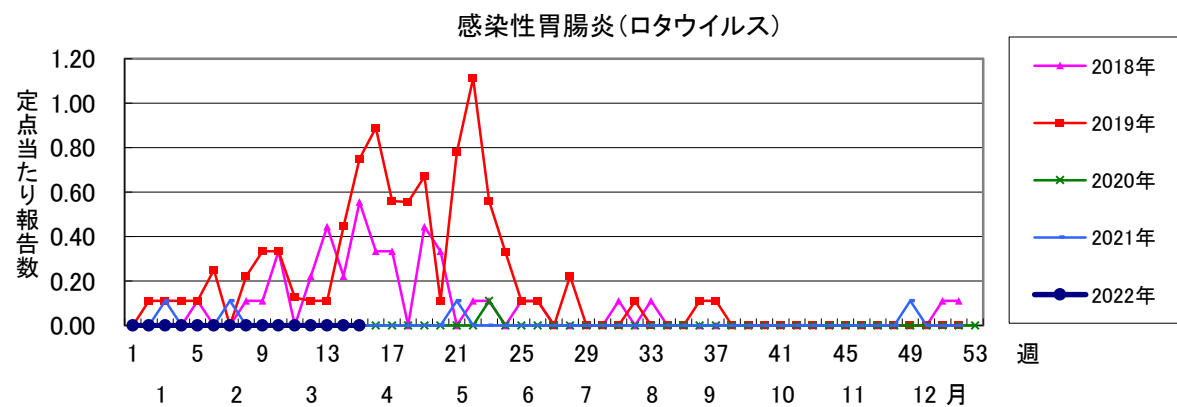
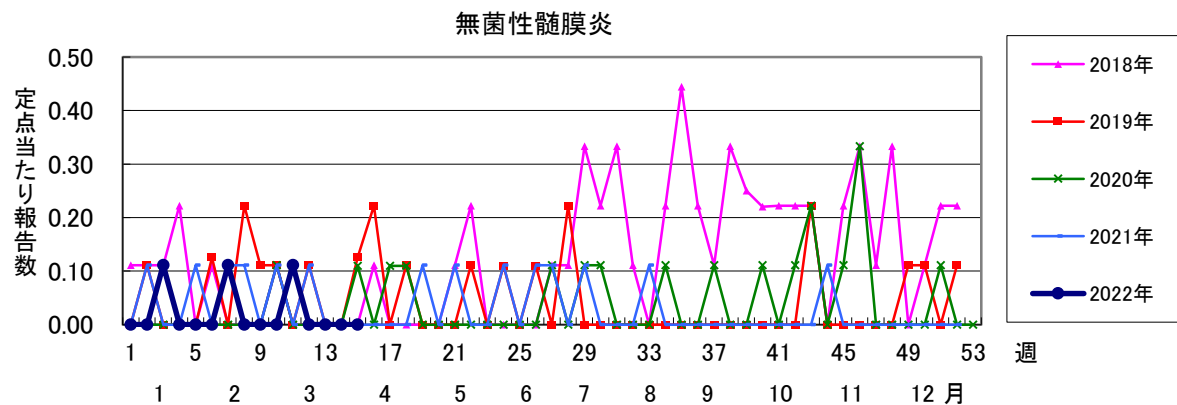












2022年 第15週		保健所別、年齢群別報告数(男女合計)															No.1
		野	柏	松	市	船	習	千	印	香	海	山	長	夷	安	君	合
		田	市	戸	川	橋	志	葉	旛	取	匝	武	生	隅	房	津	計
小児科定点数		4	9	15	10	11	8	18	16	3	3	5	4	3	4	8	128
RSウイルス感染症	～5ヶ月 ～11ヶ月																
	1歳																
	2歳																
	3歳																
	4歳																
	5歳																
	6歳																
	7歳																
	8歳																
	9歳																
咽頭結膜熱	10～14歳																
	15～19歳																
	20歳以上																
	合計																
	～5ヶ月 ～11ヶ月																
	1歳										1						1
	2歳					2	1										3
	3歳		1														1
	4歳								1								1
	5歳																
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6歳																
	7歳																
	8歳																
	9歳																
	10～14歳																
	15～19歳																
	20歳以上																
	合計		1			2	1		1		1						6
	～5ヶ月 ～11ヶ月																
	1歳															1	1
感染性胃腸炎	2歳			1													1
	3歳			1													1
	4歳																
	5歳																
	6歳			1				1									2
	7歳					2											2
	8歳					2							1				3
	9歳																
	10～14歳	1				2											3
	15～19歳																
感染性胃腸炎	20歳以上	1							2								3
	合計	2		3		6		1	2				1			1	16
	～5ヶ月 ～11ヶ月	1	3	5	1	1		6	9		1						4
	1歳	1	6	10	6	8	2	23	20	1	1	1	4				30
	2歳		8	15	5	13	8	37	24		2		1		2	1	85
	3歳		2	10	2	14	3	18	25		1		2		3	5	85
	4歳		1	4	3	3		11	13		1	1			2	4	43
	5歳		1	4	3	3		6	8		2				2	3	32
	6歳		1	3	2	6		1	5			1				2	21
	7歳		1	4				2	2	1			1		1	1	13
	8歳		3	2				2	5		1				2	3	18
	9歳			2				2	3		1					3	11
	10～14歳		1	2	1	5		3	7	1		1				6	27
	15～19歳							1	1		1					2	5
	20歳以上	2	7	4	3	2			8	3		3			3	8	43
	合計	4	34	67	26	55	13	113	132	6	11	8	8		15	47	539

2022年 第15週		保健所別、年齢群別報告数(男女合計)															No.2	
		野田	柏市	松戸	市川	船橋市	習志野	千葉市	印旛旛	香取	海匝	山武	長生	夷隅	安房	君津	市原	合計
小児科定点数		4	9	15	10	11	8	18	16	3	3	5	4	3	4	8	7	128
水痘	～5ヶ月 ～11ヶ月						1											1
	1歳					1												1
	2歳																	
	3歳			1														1
	4歳					1												1
	5歳																	
	6歳																	
	7歳						1			1								2
	8歳							1										1
	9歳																	
	10～14歳																	
	15～19歳																	
	20歳以上																	
合計				1		2	2	1		1								7
手足口病	～5ヶ月 ～11ヶ月																	
	1歳						1		5									6
	2歳								1									1
	3歳																	
	4歳																	
	5歳																	
	6歳																	
	7歳											1						1
	8歳																	
	9歳																	
	10～14歳											1						1
	15～19歳																	
	20歳以上								1									1
合計							1		7			2						10
伝染性紅斑	～5ヶ月 ～11ヶ月																	
	1歳					1												1
	2歳			1														1
	3歳																	
	4歳																	
	5歳																	
	6歳																	
	7歳																	
	8歳																	
	9歳																	
	10～14歳																	
	15～19歳																	
	20歳以上																	
合計				1		1												2
突発性発しん	～5ヶ月 ～11ヶ月								1		2	1						4
	1歳			2	2	1	1	8	3		1	1				1		20
	2歳			3	1	2	2	2	2							1	1	14
	3歳			1				1										3
	4歳			1		1												2
	5歳																	
	6歳																	
	7歳																	
	8歳																	
	9歳																	
	10～14歳																	
	15～19歳																	
	20歳以上																	
合計			2	6	3	4	3	11	6		3	2				1	2	43

2022年 第15週		保健所別、年齢群別報告数(男女合計)															No.3			
		野 田	柏 市	松 戸	市 川	船 橋 市	習 志 野	千 葉 市	印 旛	香 取	海 匝	山 武	長 生	夷 隅	安 房	君 津	市 原	合 計		
小児科定点数		4	9	15	10	11	8	18	16	3	3	5	4	3	4	8	7	128		
ヘルパンギーナ	～5ヶ月 ～11ヶ月																			
	1歳	1																1	2	
	2歳																			
	3歳																			
	4歳																			
	5歳																			
	6歳																			
	7歳																			
	8歳																			
	9歳																			
10～14歳																				
15～19歳																				
20歳以上																				
合計		1																1	2	
流行性耳下腺炎	～5ヶ月 ～11ヶ月																			
	1歳																			
	2歳																			
	3歳																			
	4歳																			
	5歳																			
	6歳	1																1	2	
	7歳																	1	1	
	8歳																			
	9歳																	1	1	
	10～14歳																			
	15～19歳																			
	20歳以上																			
合計		1																1	2	4

2022年 第15週

保健所別、年齢群別報告数(男女合計)

No.4

		野	柏	松	市	船	習	千	印	香	海	山	長	夷	安	君	市	合	
		田	市	戸	川	橋	志	葉	旛	取	匝	武	生	隅	房	津	原	計	
インフル定点数		7	14	24	15	17	14	28	24	6	6	8	7	5	7	13	11	206	
インフル エンザ	～5ヶ月 ～11ヶ月 1歳																		
	2歳																		
	3歳																		
	4歳																		
	5歳																		
	6歳																		
	7歳																		
	8歳																		
	9歳																		
	10～14歳																		
	15～19歳																		
	20～29歳																		
	30～39歳																	1	1
	40～49歳																		
50～59歳																			
60～69歳																			
70～79歳																			
80歳以上																			
合計																	1	1	
眼科 定点数		1	2	5	2	3	2	5	4	1	1	1	1		1	2	2	33	
急性出 血性 結膜 炎	～5ヶ月 ～11ヶ月 1歳																		
	2歳																		
	3歳																		
	4歳																		
	5歳																		
	6歳																		
	7歳																		
	8歳																		
	9歳																		
	10～14歳																		
	15～19歳																		
	20～29歳																		
	30～39歳																		
	40～49歳																		
50～59歳																			
60～69歳																			
70歳以上																			
合計																			
流行性 角結 膜炎	～5ヶ月 ～11ヶ月 1歳																		
	2歳																		
	3歳																		
	4歳																		
	5歳																		
	6歳																		
	7歳																		
	8歳																		
	9歳																		
	10～14歳																		
	15～19歳																		
	20～29歳																		
	30～39歳																	2	2
	40～49歳	1								1							2		
50～59歳																			
60～69歳																			
70歳以上																			
合計	1								1	2							4		

※ 千葉県の感染症情報は、千葉県感染症情報センターのホームページを御覧ください。

URL. <https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>

※ 全国の感染症情報(IDWR)は、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページを御覧ください。

URL. <https://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

千葉県結核・感染症週報 2022 年 第 15 週

発 行 千葉県衛生研究所  
千葉県健康福祉部  
千葉県医師会  
事務局 千葉県衛生研究所感染疫学研究室内  
千葉県感染症情報センター  
〒260-8715 千葉市中央区仁戸名町 666-2  
TEL. 043(266)6723 FAX. 043(265)5544

本週報は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づくものであり、千葉県内の医療従事者、定点医療機関、県及び千葉市保健所の皆様の御協力を得て、千葉県衛生研究所感染疫学研究室内の千葉県感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生ずることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。